



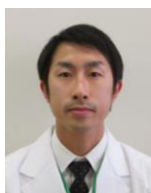
当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について （地域からの受け入れ）

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方
5. CKD（慢性腎臓病）教育入院
6. 糖尿病患者さん食事体験入院
7. 関節リウマチ患者さん教育入院

地域包括ケア病棟で受け入れた事例（第18回）

～介護者の入院に伴い、在宅介護中のご両親を地域包括ケア病棟で受け入れた事例～

お父様は他病院入院中で、翌日の退院を控えておられました。お母様は在宅サービスを利用しながら、自宅で生活されておりました。介護者である娘様が急遽当院へ入院となりご両親介護者が不在となるため、ご両親の入院を希望されました。付き添いしておられたお姉様の協力もあり、お母様は当日中に、お父様は受け入れ体制が整った段階でそれぞれ受け入れさせて頂きました。



思わぬご病気などで介護者が不在となった際に当院の地域包括ケア病棟へ入院して頂くことで、在宅介護の危機的な状況を回避することができました。

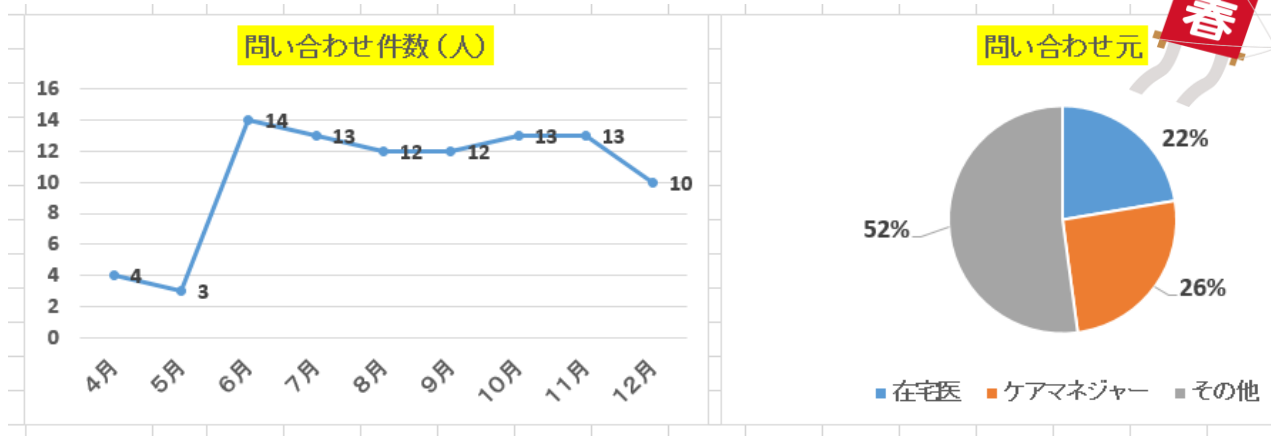
（ソーシャルワーカー 松田 辰基）

地域包括ケア病棟に関する問い合わせは、地域医療連携室まで（担当：中嶋・中野）

TEL：0774-72-0235

地域からの問い合わせの状況について

ご存知の通り、地域包括ケア病棟には2つの機能があります。一つは、**ポストアキュート**（急性期からの受け入れ）、もう一つは**サブアキュート**（地域からの受け入れ）です。当院の地域包括ケア病棟は開設して3年が経過しましたが、現在サブアキュート機能を強化すべく、地域包括ケア病棟の運営にあたっています。院外からの問い合わせ先について、件数と割合（%）をお示しします。（下図の通り）



※ 平成29年4月～12月20日までのデータです。

※ 地域からの問い合わせのうち、「その他」は、ご家族や介護施設・他医療機関からの問い合わせです。

※ 問い合わせは、ご入院を前提としたものばかりではなく、地域包括ケア病棟に関する問い合わせ（入院費用、空床情報など）も含んでいます。

診療所の先生方からの問い合わせは22%、ケアマネジャーの方からの問い合わせは26%となっています。「その他」ですが、特に、山城南医療圏域外の医療機関からの急性期治療後の受け皿（経過観察、リハビリ目的、在宅復帰の環境整備目的など）の問い合わせが多くなっています。

ケアマネジャーの方から問い合わせを頂く際には、かかりつけ医の先生に地域包括ケア病棟入院について相談されているか確認させて頂いています。また、頂戴した情報から判断し、入院後に検査が必要と思われる患者様については直接、地域包括ケア病棟ではなく、一旦、当院急性期病棟で受け入れさせて頂いています（検査結果を踏まえ、地域包括ケア病棟へ転棟して頂いています）。

お問い合わせやお受け入れについて、今後も迅速に対応できるよう心がけていきたいと思っています。平成30年は、医療保険・介護保険の同時改正の年です。国が推し進める地域包括ケアシステムの完成に向け、大きな一年になるのではないかと考えています。地域から頼りにされる地域包括ケア病棟を目指していきたいと思っていますので、平成30年も地域包括ケア病棟をよろしくお願い致します。（地域医療連携室 係長 南出 弦）